2.12. 最大値・最小値から２次関数の決定（１）　No1

(1)　関数 $y = 2x^2 - 4x + k - 1$ $(0 \leqq x \leqq 3)$ の最大値が 7 であるとき定数 k の値を求めよ。
また、このときの最小値を求めよ。

(2)　関数 $y = -x^2 + 4lx - l + 5$ $(2 \leqq x \leqq 4)$の最小値が 3 であるとき、正の定数 l の値を
求めよ。

© オンライン講師ブログ（https://tutor-blog.com/）

2.12. 最大値・最小値から２次関数の決定（１）　No1　解答

(1)　$k = 2,\ x = 1$ で最小値 $y = -1$

(2)　$l = \dfrac{14}{15}$

© オンライン講師ブログ（https://tutor-blog.com/）

2.12. 最大値・最小値から２次関数の決定（１）　No2

(1)　関数 $y = -x^2 - 2x + k^2 - 3k$ $(-2 \leqq x \leqq 2)$ の最大値が -1 であるとき
定数 k の値を求めよ。また、このときの最小値を求めよ。

(2)　関数 $y = x^2 - 6lx + 2l - 1$ $(1 \leqq x \leqq 3)$の最小値が -2 であるとき、正の定数 l の値を
求めよ。

© オンライン講師ブログ（https://tutor-blog.com/）

2.12. 最大値・最小値から２次関数の決定（１）　No2　解答

(1)　$k = 1,\ 2,\ x = 2$ で最小値 $y = -10$

(2)　$l = \dfrac{1+\sqrt{10}}{9}$

© オンライン講師ブログ（https://tutor-blog.com/）